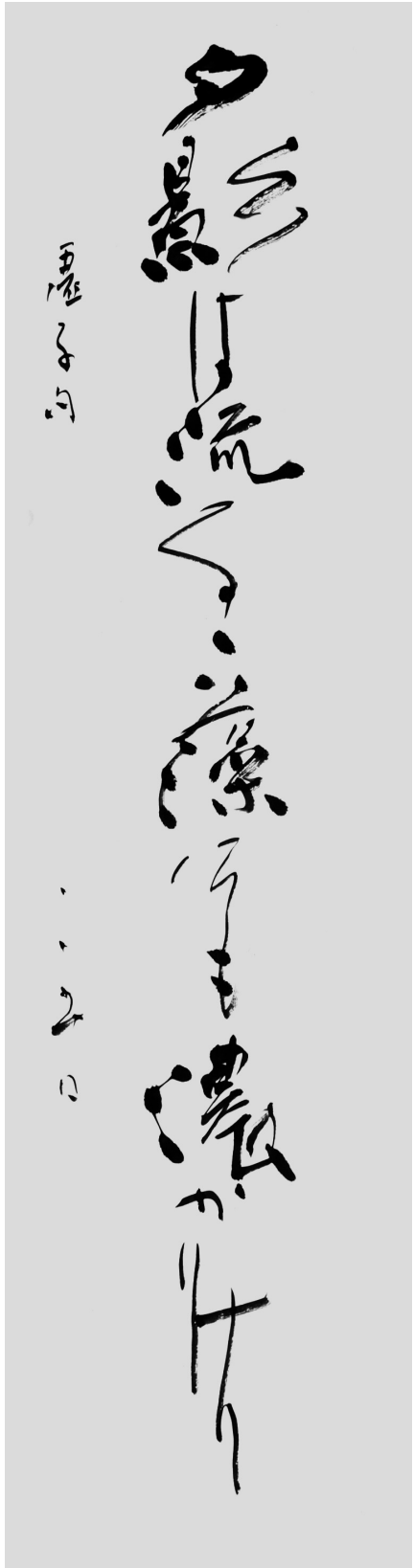


条幅部自由参考

9月25日正午必着

明石春浦先生書



夕影は流る、藻にも濃かりけり (高浜虚子)

明石幸子書



夜露無聲衣自濕、秋風有信葉先知 (趙翼)

夜露は音もなく降って、ころもは知らぬ間にぬれる。風は秋のおとずれをまっ先きに感ずるのは木の葉である。

菅井松雲先生書

おん雲の白鳥をそらえて塵の雲をきる  
よりに翔け、羽をひるがえして日の光とたわむれ、  
頸を交えて青空に舞い飛ぶ。

相送臨高臺 川原杳何極 日暮飛鳥還 行人去不息 (王維)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

詩情畫意 (呂誠)

詩情畫意

詩の情と畫の意と。

可憐雙白鵠 雙雙絶塵氛  
連翩弄光景 交頸遊青雲

(吳邁遠)

憐れむ可し雙白鵠 雙雙塵氛を絶つ  
連翩として光景を弄し 頸を交えて青雲に遊ぶ

愛すべき二羽の白鳥が羽をそらえて塵の雲をきる  
よりに翔け、羽をひるがえして日の光とたわむれ、  
頸を交えて青空に舞い飛ぶ。

經廢寶慶寺 (司空曙)

廃せる寶慶寺を經 司空曙

黃葉前朝寺 無僧寒殿開  
池晴龜出曝 松暝鶴飛回  
古砌碑橫草 陰廊畫雜苔  
禪宮亦消歇 塵世轉堪哀

黃葉前朝の寺 僧無くして寒殿開く  
池晴れて 龜出でて曝し 松暝くして 鶴飛び回る  
古砌 碑は草に横たわり 陰廊 画は苔を雜う  
禪宮も亦た消歇す 塵世 轉た哀しむに堪えたり

寺寺の鐘のさやけく鳴りひびき かまくら山に 秋風の滿つ (金子 薫園)

半紙部規定課題A

9月25日正午必着

事 長  
牽 嗟  
俗

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書

長嗟俗事寧

隸書

長嗟俗事寧

明石春浦先生書

長嗟俗事寧

長嗟俗事寧

草書

行草書

回れる塘には、越の地の水が分れて流れており、年古りた樹々には、呉の地の煙がいつぱいにむらがる。竹は地を掃うかのように揺れて、席を敷くように催促するし（池塘のほとりには）蘿が垂れ下り、船をつなぐのを待っているかのよう。

鳥ははじけたばかりの栗の実をのぞきこみ、亀はなかなば傾いている蓮の葉の上にあがる。帰ることを忘れてしまうこの庭園をしばしば訪れるたびに、俗事に束縛されているこの身を思い、深いためいきをつく。

秋日過徐氏園林 包佶

回塘分越水

古樹積吳煙

掃竹催鋪席

垂蘿待繫船

鳥窺新罇栗

龜上半敬蓮

屢入忘歸地

長嗟俗事寧

秋日 徐氏が園林に過る

包佶

回塘 越水を分ち

古樹 吳煙を積む

掃竹 席を鋪かんことを催し

垂蘿 船を繫がんことを待つ

鳥は窺う新たに罇けし栗

龜は上る 半ば敬つ蓮

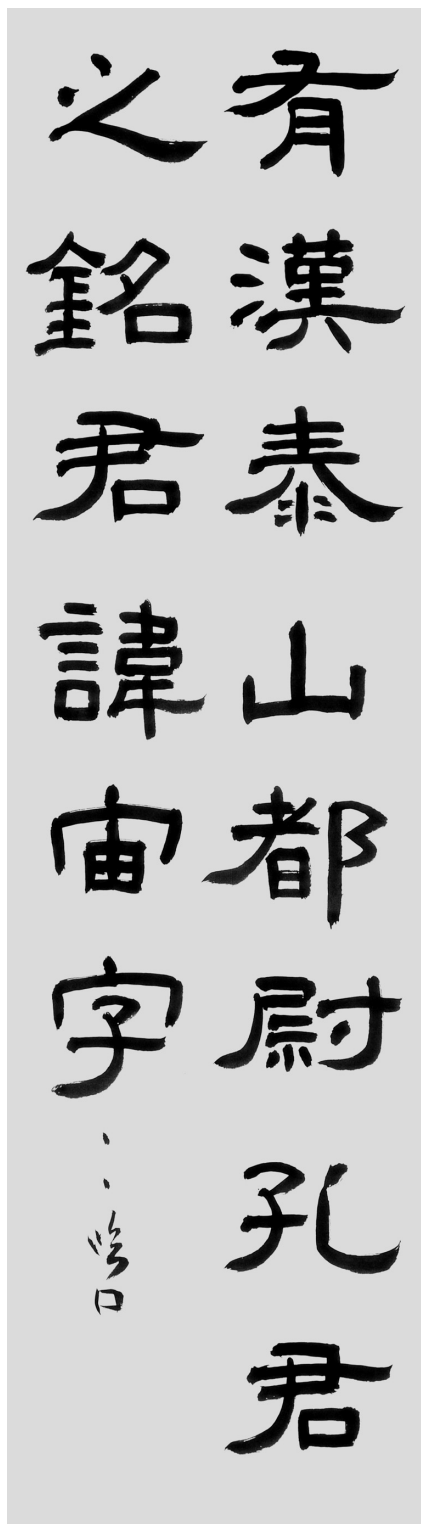
屢々帰ることを忘るる地に入り

長く嗟す 俗事に牽がることを

(出典) 朝日新聞社刊 「三体詩」下より

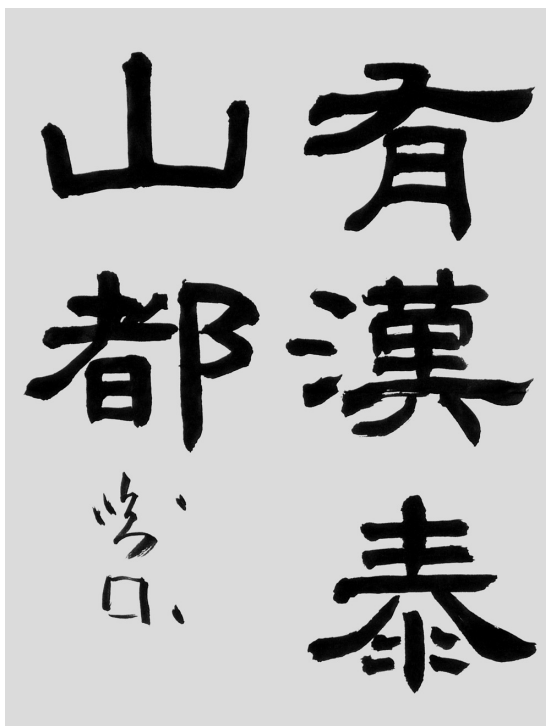


有漢泰山都尉孔君之銘君諱宙字季將孔子



有漢泰山都尉孔君之銘

君諱は宙、字は



有漢泰山都尉

後漢・孔宙碑（二六四）  
 秦代に発生した隸書が、前漢を経て、八分隸として意匠的な裝飾性を持ったかたちで完成の域に達したのが後漢（二五～二〇）の時代である。

後漢の約二百年間は、立碑刻石の全盛期であった。人物を顕彰するための建碑の流行によって、そこに刻される文字の美を競う風潮がおこり、書き手の芸術的表現意欲はますます促進されるようになった。これによって、文字の造形、筆法がより洗練され、ついには八分という隸書が完成したのである。

孔宙碑は泰山都尉孔宙碑といひ、泰山郡（山東省）の都尉という軍務をつかさどる役職にあつた孔宙（孔子十九世の孫）の没後、彼の徳を表彰して建てられた碑である。山東省曲阜の孔子廟に現存しているこの碑は、八分書の代表的なものの一つであり、他の漢碑よりさらに横長の結体が多く、曹全碑や礼器碑のような流麗さというよりも、筆を押し出していくたくましい力強さがあり、波磔の左右のバランスをとるために起筆を強くしている等の力学的にも確かな結構法がほどこされている。横画を主として一種のはなやかさやのびやかさを感じさせるこの碑の整然とした美しさと同時に力強さも意識した学び方が望ましいであろう。（春濤）

9月25日正午必着

教育部毛筆



けい  
景

かん  
観

中学一年

雨宮春聲先生書



けい  
敬

あい  
愛

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



し  
自

ぜん  
然

小学五年

榎戸春龍先生書



どう  
銅

そう  
像

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



9月25日正午必着



あき  
秋

さめ  
雨

小学三年

藤田幸春先生書



どう  
道

り  
理

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

は す 小学一年・幼年



森戸春濤書

太<sup>みと</sup> い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

青空には雲ひとつなく  
すみきった秋の高原

小学五年

もみじの赤と空の青秋晴  
れの山さわやかな季節

小学六年

谷のもみじはあざやかに  
山を染めゆく秋景色

中学

女の髪をなびかせて通る  
広い草原に吹く秋風は少

一般(級位)

音に聞く高師の浜のあだ波は  
かけ袖のぬれもこそすれ  
音に聞く高師の浜のあだ波は

一般(段位)

おとに聞く高師の浜のあだ波はかけ袖のぬれもこそすれ(祐子内親王家紀伊)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ら	ゆ
	う
あ	や
か	け
と	の
ん	
ほ	そ

幼年

ま	く
つ	も
さ	ひ
お	と
な	つ
空	な
	い

小学一年

せ	赤
に	い
う	夕
け	や
て	け
立	を
つ	

小学二年

西	あ
の	か
空	ね
を	色
か	の
ざ	雲
る	が

小学三年

由	す
にと	ず
び	し
回	げ
る	な
ひ	秋
ば	空
り	を
	自

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

花のさかりに  
なりけり

花のさかりに  
なりけり



松永翠舟先生書

おしなべて 花のさかりに 可利仁 奈利耳介 也万能者 爾に 可流 流 (西行)